私の一冊

一般教育等　竹下典子 先生

田向健一 著 『珍獣の医学』

小鹿図書館　６４９/Ta ８２

『珍獣の医学』は、珍しい動物たちの医療や飼育に関する知識を、著者の実体験を交えて紹介した一冊です。著者の田向先生は、幼少期からの動物好きが高じて獣医師となり、様々な珍しいペットたちと日々向き合っている“珍獣ドクター”です。

獣医さんといえば、動物のことは何でも知っていて、ペットのことで困った時には動物病院に連れて行けばきっと助けてくれるような期待をついつい抱いてしまいますが、田向先生曰く「実はそんなことはまったくない」とのこと。考えてみれば、人間のお医者さんは「ヒト」という特定の種を対象に、幾つもの診療科に分かれているのに対し、獣医さんは哺乳類だけでなく、両生類や爬虫類、鳥類、魚類まで多様な動物種を取り扱い、さらに、内科も外科も全て診療をしなければなりません。一人の獣医師が何でも対応できるなんて、とんでもないことだと、この本を読んで気付かされました。

特に田向先生は「エキゾチックペット」と呼ばれる珍しいペット(＝珍獣)を積極的に診察されています。大小様々なペットたちの前例のない症例が次々と現れるため、独自のアプローチが求められます。体長2cm の小さなカエルの開腹手術のような繊細な作業から、亀の甲羅をノコギリで切り、ノミとトンカチで結石を砕いて取り出すという大工さながらの処置まで、スケールも幅広く、オスだと思っていたのにメスだったイグアナの卵詰まりや、レンコンをつまみ食いしてしまった犬などちょっとびっくりするような症例も登場します。田向先生が、その一例一例に真摯に取り組み、試行錯誤を重ねて診療されている様子が描かれています。

また、動物の生態や行動についての新たな知識を得られることも本書の大きな魅力です。単なる動物の解説にとどまらず、彼らが抱える医学的な問題や課題にも焦点を当てています。さらに、ペットを飼うことの責任や命の重みについての記述もあります。私はペットを飼っていませんが、動物が大好きですし、実験動物を扱う研究者でもあるため、動物福祉の視点からも改めて考えさせられました。

時々、痛々しい写真や悲しい結末を迎える事例もあるので、苦手な方には少し注意が必要ですが、それ以上に処置に成功し、動物が元気になったエピソードが多く、ほっこりする可愛い写真も多数掲載されており、全体的に楽しく読むことができます。動物好きな方や、ペットを飼いたいと思っている方には、ぜひ手に取っていただきたい一冊です。